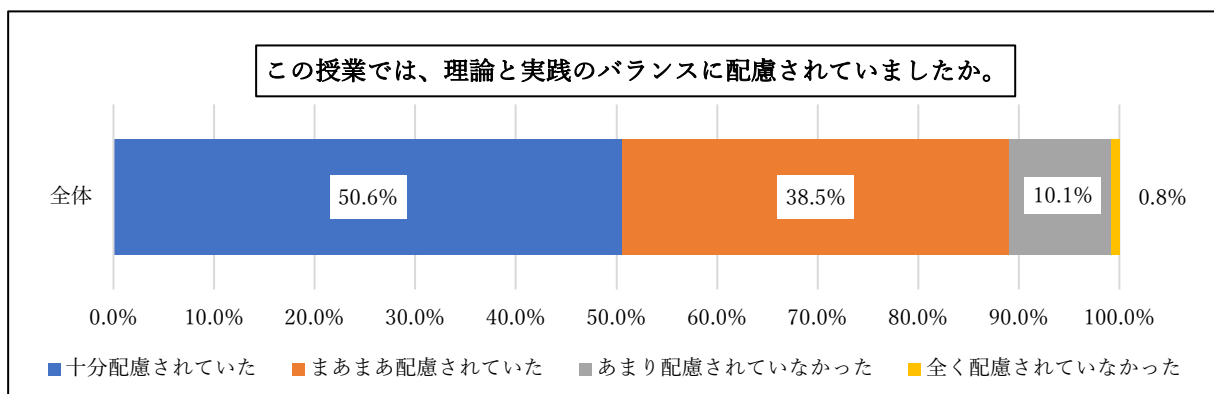
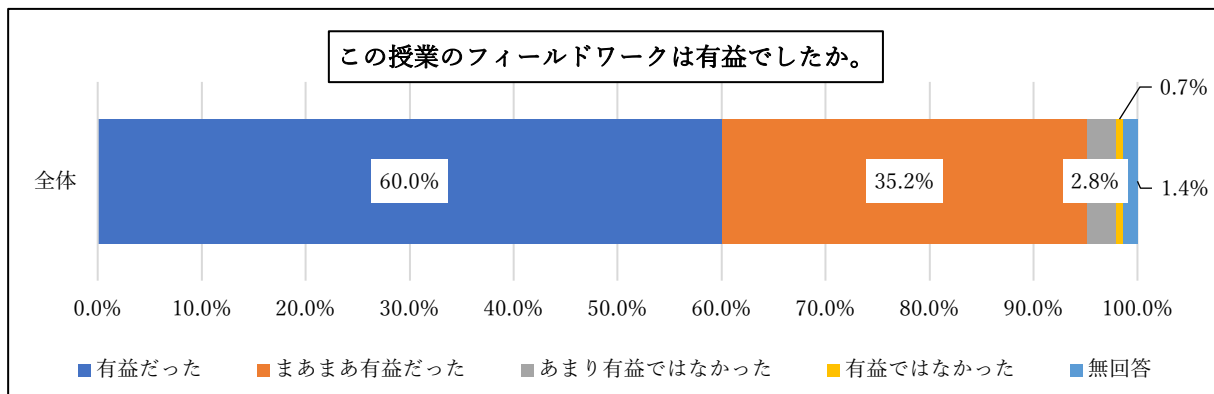
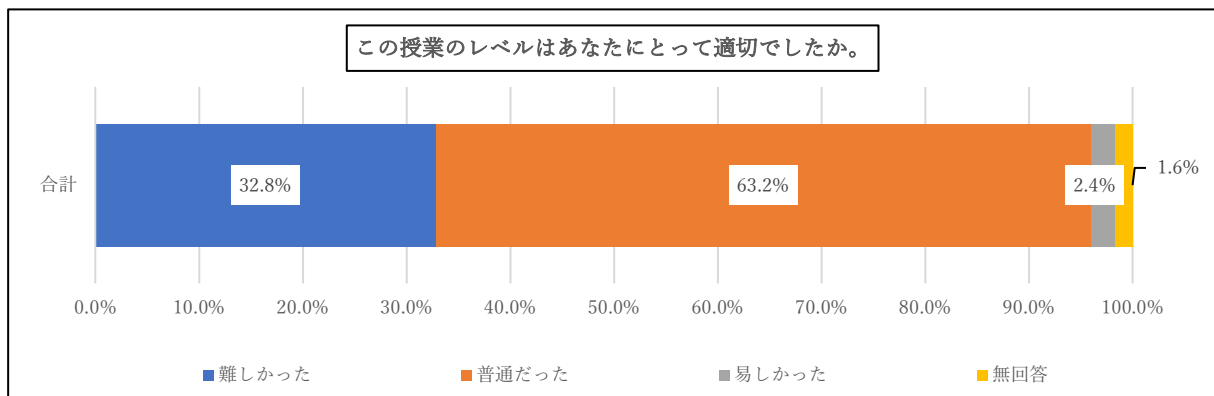
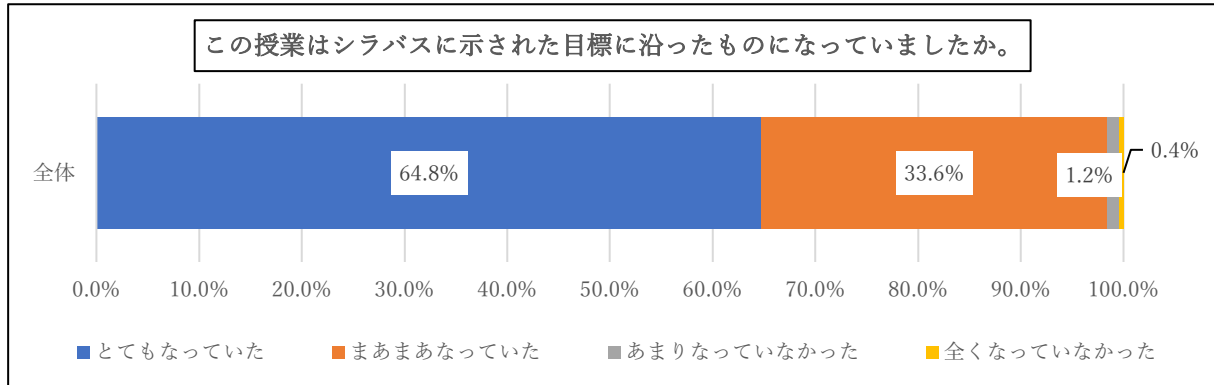
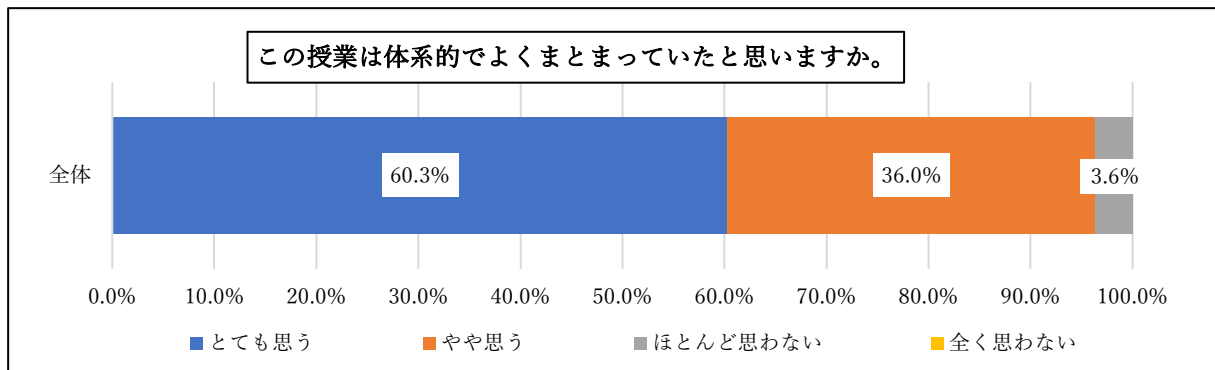


2022 年度春学期「授業アンケート」

授業アンケートの結果

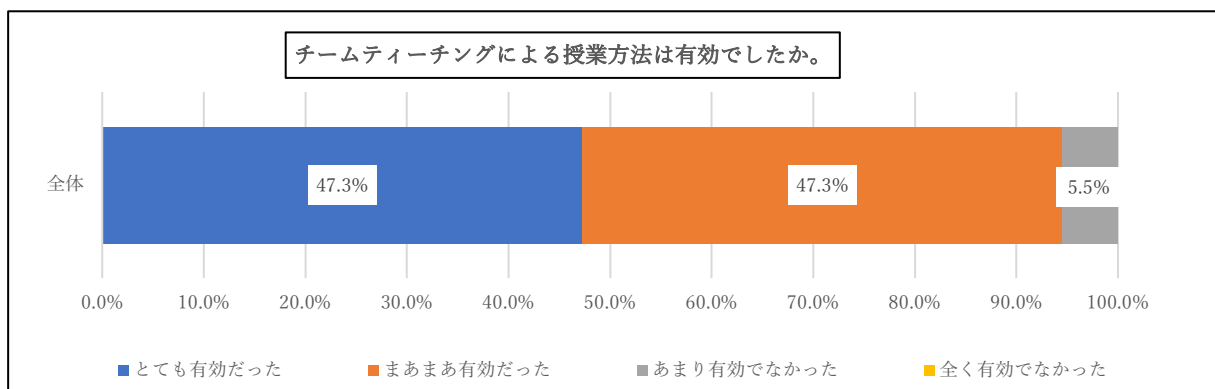
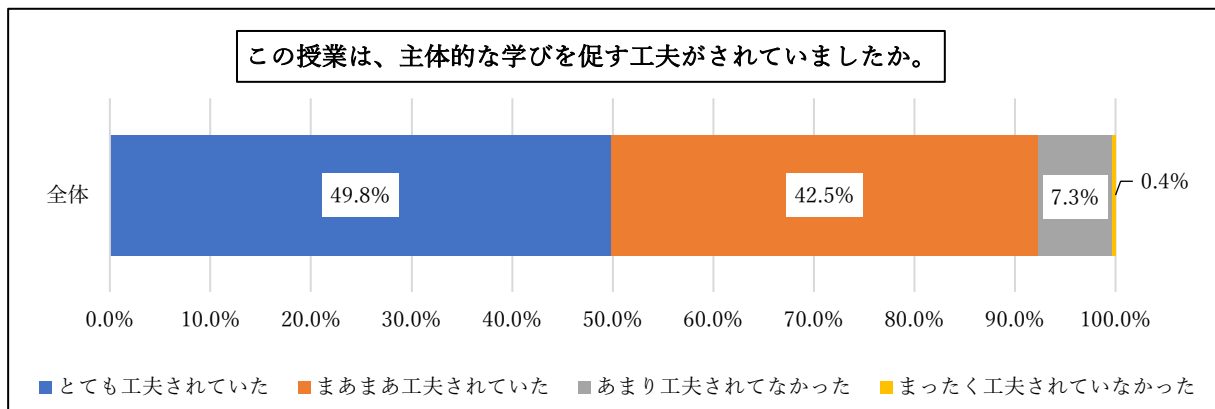
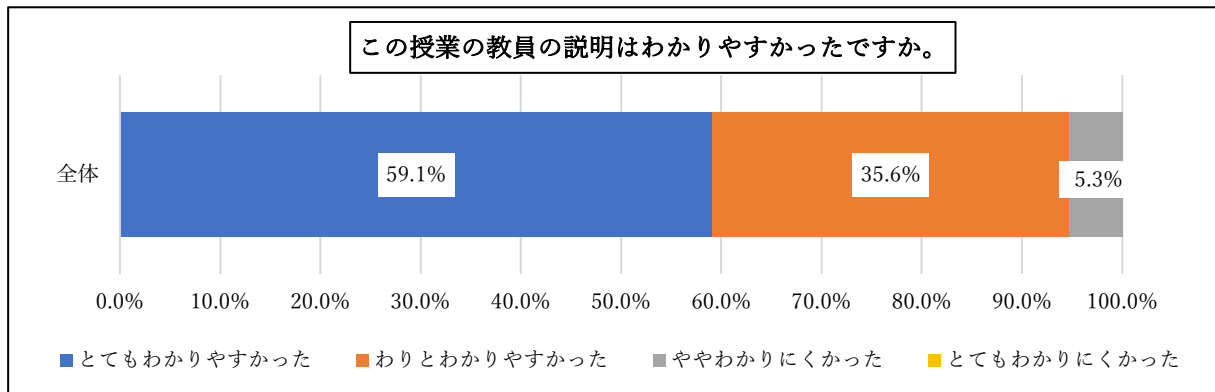
(1) 授業内容について

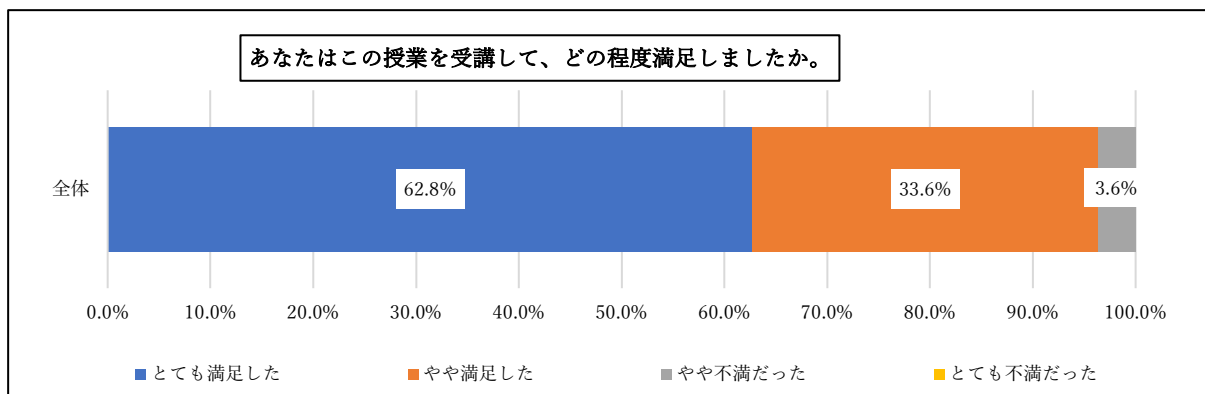




「授業内容について」は、肯定的な回答が9割前後で推移しており、特に授業のレベルについては、昨年度は7%見られていた「易しかった」との回答が3%未満に縮減した。一方、理論と実践のバランスについては、否定的回答が1割を超えており、受講生のニーズを見極めた上での工夫が求められている。

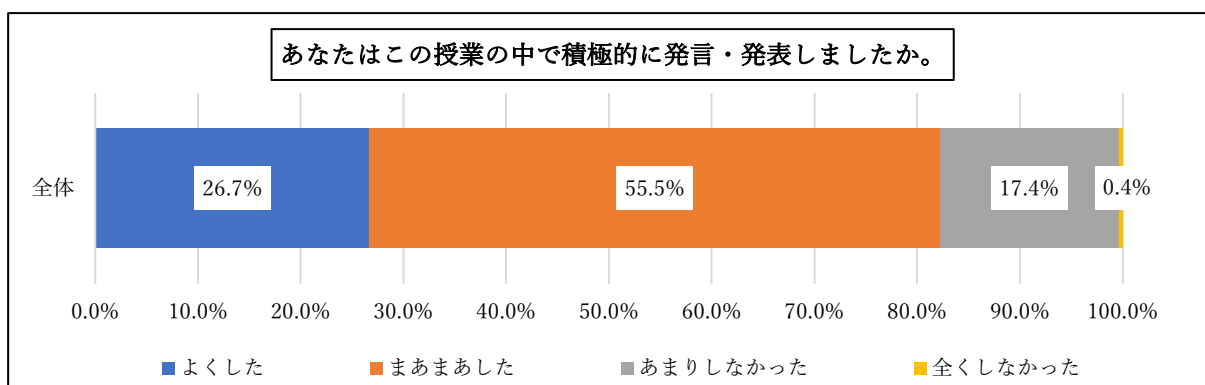
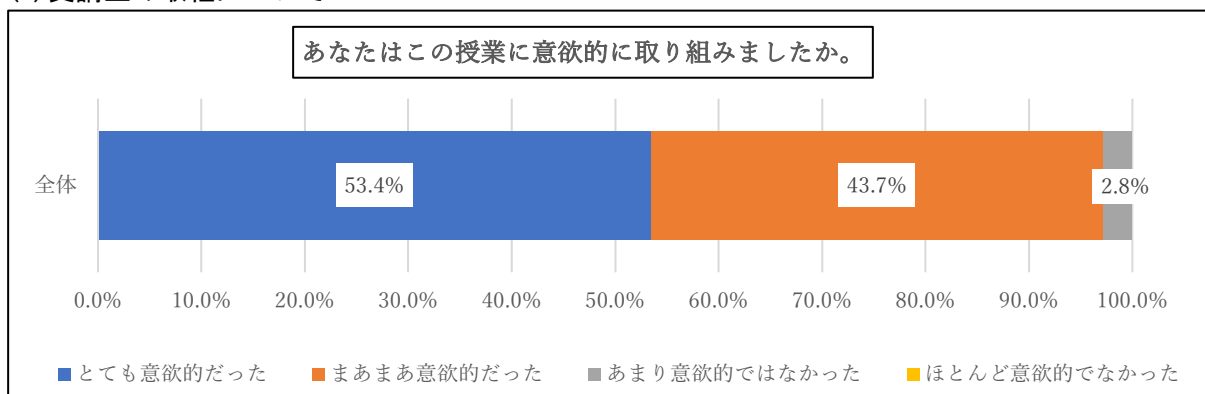
(2) 授業の進め方について

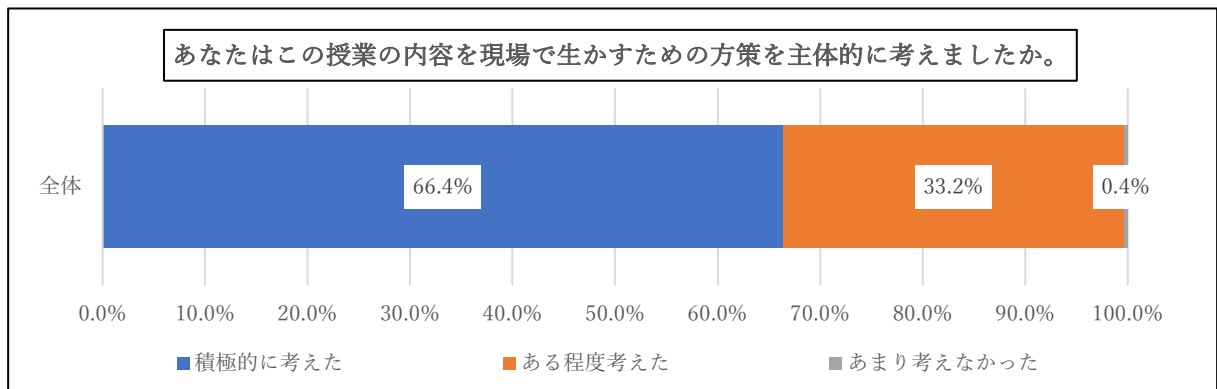
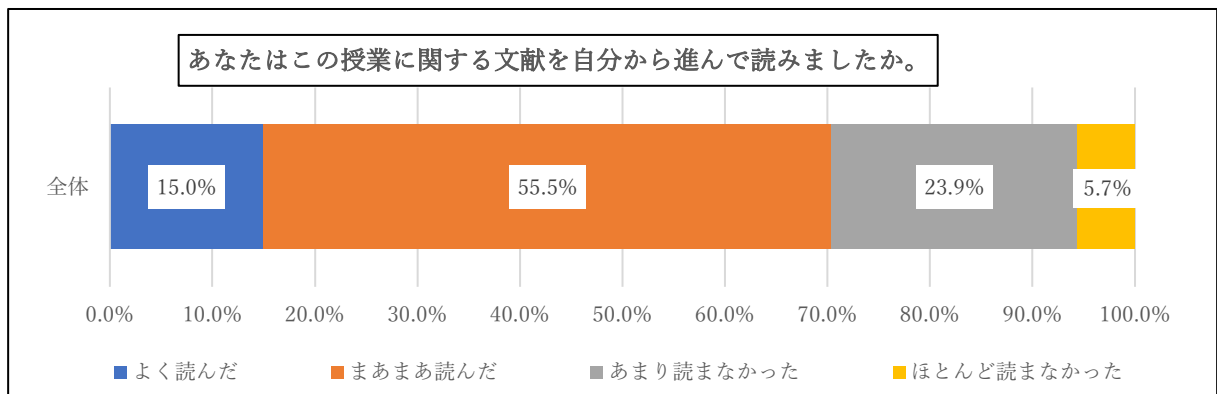
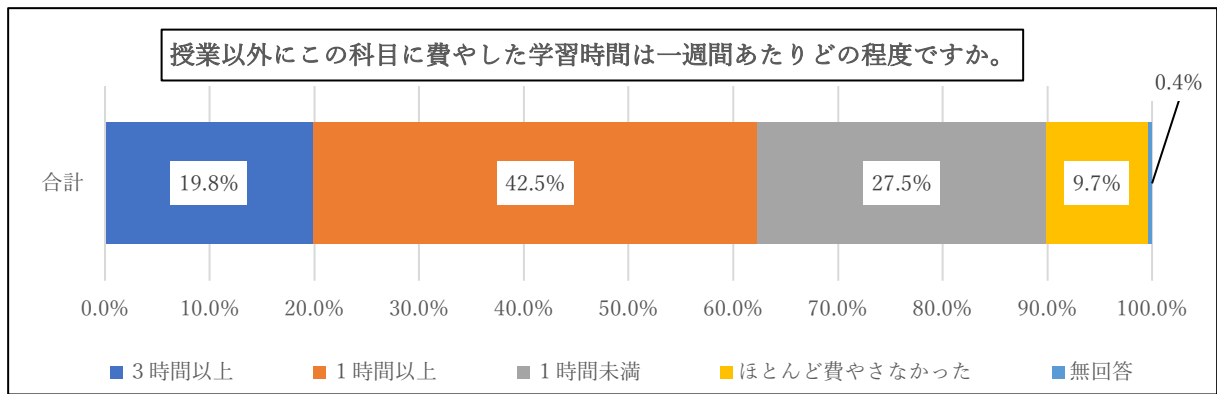




「授業の進め方について」は、肯定的な回答の割合がほぼ前年度並みの9割程度の水準で維持されている。ただし、最も肯定的な選択肢である「とても～」の割合がやや縮減している傾向が見られるとともに、チームティーチングの有効性に関する設問以外では、否定的回答の割合が微増している。担当教員が変更となった科目もあることを考慮すると、チームティーチング自体は有効に機能していることが推察され、受講生の実態に即した授業展開の一層の工夫が今後の課題と言える。

(3) 受講生の取組について





「受講生の取組について」は、意欲面で肯定的回答の割合が9割以上を維持しており、積極的発言・発表に関する設問において「あまりしなかった」の割合が6ポイント程度減少するなど、改善が見られる部分もある。一方、授業外学習時間に関する設問では、「3時間以上」と「1時間未満」の割合がそれぞれ5ポイント前後の増加を示し、逆に「1時間以上」が10ポイント近く減少したため、前年度より個人差が広がっているという見方ができる。今後の課題としては、この個人差への対応を念頭においた上で、主体的な学びを育むための工夫に努めることが挙げられる。